

今年のはす公園は、8月中旬頃まで花が楽しめそうです。

第14回

はすまつり



7月22日(日)、はす公園ではすまつりがオープンしました。今年の花の開花は例年より遅めで、はす公園での一番花は6月23日に紅舞姫蓮(べにまいひれん)が咲きました。7月中旬からほぼ満開となり、県内外から多くの観光客が訪れ、白、ピンクと色あでやかに咲き揃った花はすを撮影するなど、楽しみました。

今年の新作 蓮キャンドル

南条商工会女性部(坂井由美子部長)
蓮キャンドルを考案

7色の蠟パウダーを透明なグラスに自由に詰め、その上に溶かした蠟をかけ、花蓮を形どったキャンドルを乗せる体験コーナーを設けました。



高橋香代さん(鯖江市・9歳)
はすまつりは、家族で毎年来ています。花も綺麗だし、象鼻杯も大ファン。今日はこのキャンドル作りもやってみました。綺麗だから持って帰って飾ります。

象鼻杯



▶はすまつり名物、はすの葉に穴を開け、茎を通してワインやジュースを飲む象鼻杯。今年も多くの人で賑いました。

はす染め 体験



▲紙筒を利用した絞り染めに挑戦。独特の味わいをもつ、素敵なマイスカーフに染め上がりました。

ヤシャゲンゴロウの保護増殖活動

- ・人工繁殖へ飼育場整備
- ・ヤシャゲンゴロウを育てる会を発足



シャゲンゴロウが安定して生存できる環境づくりなどを目標とした事業計画などを確認しました。同センターには飼育場を設置。増殖技術を確立するための技術や調査研究を進め、5年を目安に生息状況の把握、人工繁殖技術やエサの研究など、保護増殖活動を行っていきます。

また、この育てる会に助言するヤシャゲンゴロウ増殖事業検討会（保科英人座長・福井大学助教授）も設立、この「ヤシャゲンゴロウを育てる会」をサポートしていきます。

6月22日、かねてから今庄地区の宇津尾、橋立、広野の地元3地区が中心となり準備を進めていた、夜叉ヶ池にのみ生息するヤシャゲンゴロウを保護する「ヤシャゲンゴロウを育てる会」が発足しました。

今庄青少年育成センターときめきで開かれた設立総会では、奥野宏氏（白鬚）を会長に選任、ヤ



【ヤシャゲンゴロウを育てる会目的】
 ▼環境条件の確保・保全
 ▼人工繁殖技術の確立
 ▼地域の自主的な保護活動の展開

奥野会長は「飼育場は、同センターとぎめき内に設置。広さは約55㎡で、飼育場には成虫用の水槽3基を設置し、池に近い環境で繁殖させるため、水は宇津尾谷から引いています。冷房も設置し、池とほぼ同じ温度の条件下で育てています。

現在、6月7日に採取した20頭のヤシャゲンゴロウと生まれたばかりの幼虫を飼育中」と話していました。

速報



7月16日早朝、ヤシャゲンゴロウの成虫が同センターに設置した水槽で発見されました。

7月19日現在、7頭が羽化し、元気づく育っています。

奥野会長は「この新成虫をもとに、ヤシャゲンゴロウの生涯と寿命の調査に入れると言んでいます。

今後は身近で基礎的な調査研究を行い、ヤシャゲンゴロウの生息を知る手がかりとしたいと考えています。様々なことを想定しながら研究を重ねていければ」と話していました。